Informatica® Cloud Data Integration

Amazon Athena コネクタ

Informatica Cloud Data Integration Amazon Athena コネクタ
2022 年 10 月

© 著作権 Informatica LLC 2020, 2022

本ソフトウェアおよびマニュアルは、使用および開示の制限を定めた個別の使用許諾契約のもとでのみ提供されています。本マニュアルのいかなる部分も、いかなる手段（電子的複写、写真複写、録音など）によっても、Informatica LLC の事前の承諾なしに複製または転載することは禁じられています。

米政府の権利プログラム、ソフトウェア、データベース、および関連文書や技術データは、米国政府の顧客に配信され、「商用コンピュータソフトウェア」または「商業技術データ」は、該当する連邦政府の取得規制と代理店固有の補足規定に基づきます。このように、使用、複製、開示、変更、および適応は、適用される政府の契約に規定されている制限およびライセンス条項に従うものとし、政府契約の条項によって適当な範囲において、FAR 52.227-19、商用コンピュータソフトウェアライセンスの追加権利を規定します。

Informatica、Informatica ロゴ、Informatica Cloud、および PowerCenter は、米国およびその他の国における Informatica LLC の商標または登録商標です。Informatica の商標の最新リストは、Web（https://www.informatica.com/trademarks.html ）にあります。その他の企業名および製品名は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

本ソフトウェアまたはドキュメンテーション（あるいはその両方）の一部は、第三者が保有する著作権の対象となります。必要な第三者の通知は、製品に含まれています。

特許については、https://www.informatica.com/legal/patents.html を参照してください。

免責: 本文書は、一切の保証を伴わない「現状渡し」で提供されるものとし、Informatica LLC は他社の権利の非侵害、市場性および特定の目的への適合性の黙示の保証などを含めて、一切の明示的および黙示的保証の責任を負いません。Informatica LLC では、本ソフトウェアまたはドキュメントに誤りのないことを保証していません。本ソフトウェアまたはドキュメントに記載されている情報には、技術的に不正確な記述や誤植が含まれる場合があります。本ソフトウェアまたはドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。

NOTICES

この Informatica 製品（以下「ソフトウェア」）には、Progress Software Corporation（以下「DataDirect」）の事業子会社である DataDirect Technologies からの特定のドライバ（以下「DataDirect ドライバ」）が含まれています。DataDirect ドライバには、次の用語および条件が適用されます。

1. DataDirect ドライバは、特定物として現存するままの状態で提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。
2. DataDirect または第三者は、予見の有無を問わず発生した ODBC ドライバの使用に関するいかなる直接的、間接的、偶発的、特別、あるいは結果的損害に対して責任を負わないものとします。本制限事項は、すべての訴訟原因に適用されます。訴訟原因には、契約違反、保証違反、過失、厳格責任、詐称、その他の不法行為を含みますが、これらに限るものではありません。

本マニュアルの情報は、予告なしに変更されることがあります。このドキュメントで問題が見つかった場合は、infa_documentation@informatica.com までご報告ください。

Informatica 製品は、それらが提供される契約の条件に従って保証されます。Informatica は、商品性、特定目的への適合性、非侵害性の保証等を含めて、明示的または黙示的ないかなる種類の保証をせず、本マニュアルの情報を「現状のまま」提供するものとします。

発行日: 2022-12-04

目次

序文 4

Informatica のリソース 4

Informatica マニュアル 4

Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト 4

Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティ 4

Informatica Intelligent Cloud Services マーケットプレース 5

データ統合コネクタのドキュメント 5

Informatica ナレッジベース 5

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center 5

Informatica グローバルカスタマサポート 5

第 1 章 : Amazon Athena コネクタについて 6

Amazon Athena について 6

Amazon Athena コネクタの概要 6

Amazon Athena コネクタの管理 7

最小の Amazon IAM ポリシーの作成 7

AWS Glue データカタログポリシーの作成 8

Amazon Athena ポリシーの作成 8

AWS Lake Formation の使用例 9

第 2 章 : Amazon Athena 接続 10

Amazon Athena 接続の概要 10

Amazon Athena 接続のプロパティ 10

第 3 章 : Amazon Athena ソース 12

Amazon Athena ソース機能 12

Amazon Athena ソースのデータ暗号化 13

第 4 章 : Amazon Athena コネクタを使用したマッピングとマッピングタスク 14

マッピングの Amazon Athena ソース 14

マッピングタスクでの Amazon Athena ソース 16

第 5 章 : データ型リファレンス 17

データ型リファレンスの概要 17

Amazon Athena とトランスフォーメーションのデータ型 17

索引 19

序文

*Amazon Athena 接続*を使用して、クラウドデータ統合で Amazon Athena から読み取りを行う方法を確認します。クラウドデータ統合での Amazon Athena 接続の作成方法、マッピングタスクとマッピングの開発および実行する方法について説明します。

Informatica のリソース

Informatica は、Informatica Network やその他のオンラインポータルを通じてさまざまな製品リソースを提供しています。リソースを使用して Informatica 製品とソリューションを最大限に活用し、その他の Informatica ユーザーや各分野の専門家から知見を得ることができます。

Informatica マニュアル

Informatica マニュアルポータルでは、最新および最近の製品リリースに関するドキュメントの膨大なライブラリを参照できます。マニュアルポータルを利用するには、https://docs.informatica.com にアクセスしてください。

製品マニュアルに関する質問、コメント、ご意見については、Informatica マニュアルチーム（infa_documentation@informatica.com）までご連絡ください。

Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト

Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト（http://www.informatica.com/cloud）にアクセスできます。このサイトには、Informatica Cloud 統合サービスに関する情報が含まれます。

Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティ

Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティを使用して、技術的な問題について議論し、解決します。また、技術的なヒント、マニュアルの更新情報、FAQ（よくある質問）への答えを得ることもできます。

次の Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティにアクセスします。

https://network.informatica.com/community/informatica-network/products/cloud-integration

開発者は、次の Cloud 開発者コミュニティで詳細情報を確認したり、ヒントを共有したりできます。

https://network.informatica.com/community/informatica-network/products/cloud-integration/cloud-developers

Informatica Intelligent Cloud Services マーケットプレース

Informatica マーケットプレイスにアクセスすると、データ統合コネクタ、テンプレート、およびマップレットを試用したり購入したりできます。

https://marketplace.informatica.com/

データ統合コネクタのドキュメント

データ統合コネクタのドキュメントには、マニュアルポータルからアクセスできます。マニュアルポータルを利用するには、https://docs.informatica.com にアクセスしてください。

Informatica ナレッジベース

Informatica ナレッジベースを使用して、ハウツー記事、ベストプラクティス、よくある質問に対する回答など、製品リソースを見つけることができます。

ナレッジベースを検索するには、https://search.informatica.com にアクセスしてください。ナレッジベースに関する質問、コメント、ご意見の連絡先は、Informatica ナレッジベースチーム（KB_Feedback@informatica.com）です。

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center は、Informatica のセキュリティポリシーおよびリアルタイムでのシステムの可用性について情報を提供します。

Trust Center（https://www.informatica.com/trust-center.html）にアクセスします。

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center にサブスクライブして、アップグレード、メンテナンス、およびインシデントの通知を受信します。Informatica Intelligent Cloud Services Status ページには、すべての Informatica Cloud 製品の実稼働ステータスが表示されます。メンテナンスの更新はすべてこのページに送信され、停止中は最新の情報が表示されます。更新と停止の通知がされるようにするには、Informatica Intelligent Cloud Services の 1 つのコンポーネントまたはすべてのコンポーネントについて更新の受信をサブスクライブします。すべてのコンポーネントにサブスクライブするのが、更新を逃さないようにするための最良の方法です。

登録するには、https://status.informatica.com/に移動し、**［更新を購読登録］**をクリックします。その後、電子メール、SMS テキストメッセージ、Webhook、RSS フィードとして、またはこの 4 つを任意に組み合わせて送信された通知を受信することを選択ができます。

Informatica グローバルカスタマサポート

電話またはオンラインでカスタマサポートセンターに連絡できます。

オンラインサポートについては、Informatica Intelligent Cloud Services の**［サポート要求の送信］**をクリックしてください。またオンラインサポートを使用して問題を記録することもできます。オンラインサポートを利用するには、ログインが必要です。https://network.informatica.com/welcome でログイン要求できます。

Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica の Web サイト https://www.informatica.com/services-and-training/support-services/contact-us.html に掲載されています。

第 1 章

Amazon Athena コネクタについて

この章では、以下の項目について説明します。

- Amazon Athena について, 6 ページ
- Amazon Athena コネクタの概要, 6 ページ
- Amazon Athena コネクタの管理, 7 ページ
- AWS Lake Formation の使用例, 9 ページ

Amazon Athena について

Amazon Athena は、標準の SQL を使用して Amazon Simple Storage Service（Amazon S3）のデータを分析するためのクエリサービスです。大規模なデータセットに複雑なクエリを実行した場合でも、Amazon Athena は複数のクエリを同時に実行して結果を素早く取得します。

Amazon Athena は、Amazon S3 に保存されている非構造化データや半構造化データ、構造化データを分析する場合に役立ちます。

Amazon Athena は、スキーマをデータカタログまたは AWS Glue データカタログに保存し、クエリ実行時にそのスキーマを使用します。Amazon Athena は、Apache Hive を使用してテーブルやデータベースを作成します。

Amazon Athena コネクタの概要

Amazon Athena コネクタを使用すると、Cloud データ統合で Amazon Athena からデータを読み取ることができます。Amazon Athena を使用して Amazon S3 からフラットファイルおよび Parquet ファイルを読み取るには、Amazon Athena コネクタを使用します。

Amazon Athena コネクタを使用すると、Athena データカタログおよび AWS Glue データカタログのビューや外部テーブルからデータを読み取ることができます。外部テーブルで Amazon S3 の場所にマッピングされている Amazon S3 ファイルを読み取ったり、それらのファイルにクエリを実行したりする場合は、Amazon Athena コネクタを使用します。

Amazon S3 にある暗号化されたデータに対して Amazon Athena でクエリを実行できます。Amazon S3 がホストされているリージョンでは、Amazon Athena クエリを実行する必要があります。Amazon S3 に保存されている Amazon Athena クエリの結果を暗号化することもできます。

Amazon Athena 接続を作成して、マッピングおよびマッピングタスクでその接続を使用することができます。

マッピングを詳細モードに切り替えて、高度な機能を有効にするためのトランスフォーメーションと関数を含めることができます。

マッピングタスクを作成して、マッピングまたは統合テンプレートで定義されているデータフローロジックに基づきデータを処理します。

Amazon Athena コネクタの管理

組織の管理者が次のタスクを実行すると、ユーザーは Amazon Athena コネクタを使用できるようになります。

- アクセスキーとシークレットキーを作成して認証を管理します。
  Amazon Athena 接続を設定する際に、アクセスキーとシークレットキーの値を指定します。
- サーバーサイド暗号化またはクライアントサイド暗号化を有効にする場合は、AWS Key Management Service（AWS KMS）で管理された顧客マスタキーを作成します。
- Amazon Athena コネクタの最小の Amazon Identity and Access Management（IAM）ポリシー、AWS Glue データカタログポリシー、および Amazon Athena ポリシーを作成します。

最小の Amazon IAM ポリシーの作成

Amazon IAM ポリシーを作成して、Amazon Athena の結果を Amazon S3 に保存するための権限を定義します。

Amazon Athena の結果を Amazon S3 に保存するには、次のような、必要な最小の権限を使用します。

- PutObject
- GetObject
- DeleteObject
- ListBucket

次のサンプル Amazon IAM ポリシーを使用できます。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "s3:PutObject",
                "s3:GetObject",
                "s3:DeleteObject",
                "s3:ListBucket"
            ],
            "Resource": [
                "arn:aws:s3:::<bucket_name>/*",
                "arn:aws:s3:::<bucket_name>"
            ]
        }
    ]
}
```

AWS Glue データカタログポリシーの作成

AWS IAM を使用して、AWS Glue が使用するリソースにアクセスするために必要なポリシーとロールを定義できます。

AWS Glue データカタログには次のサンプルポリシーを使用できます。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "glue:*",
            ],
            "Resource": [
                "*"

            ]
        }
    ]
}
```

Amazon Athena ポリシーの作成

AWS Glue データカタログのビューと外部テーブルからデータを読み取り、Amazon S3 ファイルを読み取ってクエリするために Amazon Athena コネクタに必要な最小の権限を指定します。

次のような、必要な最小の権限を使用できます。

- GetWorkGroup
- GetTableMetadata
- StartQueryExecution
- GetQueryResultsStream
- ListDatabases
- GetQueryExecution
- GetQueryResults
- GetDatabase
- ListTableMetadata
- GetDataCatalog

Amazon Athena には次のサンプルポリシーを使用できます。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "athena:GetWorkGroup",
                "athena:GetTableMetadata",
                "athena:StartQueryExecution",
                "athena:GetQueryResultsStream",
                "athena:ListDatabases",
                "athena:GetQueryExecution",
                "athena:GetQueryResults",
                "athena:GetDatabase",
                "athena:ListTableMetadata",
                "athena:GetDataCatalog"
            ],
            "Resource": [
                "arn:aws:athena:*:*:workgroup/*",
```

```
                "arn:aws:athena:*:*:datacatalog/*"
            ]
        },
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "athena:ListDataCatalogs",
                "athena:ListWorkGroups"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

AWS Lake Formation の使用例

Lake Formation が特定の権限付きで設定されている場合、Amazon S3 V2 コネクタを使用して Lake Formation にデータを書き込んだり、Amazon Athena コネクタを使用して Lake Formation からデータを読み取ることができます。

Lake Formation ユーザーは、Lake Formation への書き込みアクセス、外部のテーブルやカラムに対するフルアクセスでの読み取り、外部テーブルに対する制限付きアクセスでの読み取り、外部テーブルに対するタグベースのアクセスでの読み取りなど、特定の権限を持つことができます。

データを Lake Formation と統合する方法については、Writing to and reading from AWS Lake Formation を参照してください。

第 2 章

Amazon Athena 接続

この章では、以下の項目について説明します。

- Amazon Athena 接続の概要, 10 ページ
- Amazon Athena 接続のプロパティ, 10 ページ

Amazon Athena 接続の概要

Amazon Athena からデータを読み取る場合に、Amazon Athena 接続を使用できます。マッピングおよびマッピングタスクでソースを指定する場合に、その接続を使用できます。

[接続] ページで接続を作成し、作成した接続を使用して Amazon Athena のテーブルまたはビューからのデータの読み取りやデータのプレビュー、マッピングの実行を行います。Amazon Athena からデータを読み込む場合のソースプロパティを定義します。

Amazon Athena 接続のプロパティ

Amazon Athena 接続をセットアップする場合には、接続プロパティを設定する必要があります。

次の表に、Amazon Athena の接続プロパティを示します。

接続プロパティ	説明
ランタイム環境	タスクを実行するランタイム環境の名前。 Secure Agent または Hosted Agent を指定します。
認証タイプ	Amazon Athena に接続するための認証メカニズム。**[永続的な** IAM **認証情報]** を選択します。
アクセスキー	オプション。Amazon Athena に接続するためのアクセスキー。
秘密鍵	オプション。Amazon Athena に接続するためのシークレットキー。

接続プロパティ	説明

JDBC URL	Amazon Athena 接続の URL。
	JDBC URL は次の形式で入力します。
	`jdbc:awsathena://AwsRegion=<region_name>;S3OutputLocation=<S3_Output_Location>;`
	ページネーションを使用して、Amazon Athena クエリの結果を取得できます。ページネーションを使用するには、プロパティに `UseResultsetStreaming=0` を設定します。
	このプロパティは次の形式で入力します。
	`jdbc:awsathena:// AwsRegion=<region_name>;S3OutputLocation=<S3_Output_Location>;UseResultsetStreaming=0;`
	また、ストリーミングを使用してパフォーマンスを向上させて、Amazon Athena クエリ結果をより高速に取得することもできます。ストリーミングを使用する場合は、ポート 444 が開いていることを確認してください。
	デフォルトでは、ストリーミングが有効になっています。

顧客マスタキー ID	オプション。AWS Key Management Service（AWS KMS）によって生成された顧客マスタキー ID、またはアカウント間アクセス用のカスタムキーの Amazon リソースネーム（ARN）を指定します。 Amazon S3 バケットが存在するリージョンの顧客マスタキー ID を生成する必要があります。顧客が生成した顧客マスタキー ID またはデフォルトの顧客マスタキー ID を指定できます。

第 3 章

Amazon Athena ソース

この章では、以下の項目について説明します。

- Amazon Athena ソース機能, 12 ページ
- Amazon Athena ソースのデータ暗号化, 13 ページ

Amazon Athena ソース機能

マッピングのソースとして Amazon Athena オブジェクトを使用できます。テーブルおよびビューを Amazon Athena ソースとして使用できます。

詳細ソースプロパティを設定する場合、Amazon Athena 固有のプロパティを設定します。

以下の表に、マッピングで使用できる Amazon Athena ソース機能を示します。

機能	マッピングに使用可能
サーバーサイド暗号化	はい
KMS を使用したサーバーサイド暗号化	はい
クライアントサイド暗号化（KMS を使用）	はい
フィルタ	はい
ソート	はい
データプレビュー	はい
テーブル名のオーバーライド	はい
スキーマ名のオーバーライド	はい

Amazon Athena ソースのデータ暗号化

Amazon S3 にある暗号化されたデータに対して Amazon Athena でクエリを実行できます。Amazon S3 がホストされているリージョンでは、Amazon Athena クエリを実行する必要があります。Amazon S3 に保存されているクエリ結果を暗号化することもできます。

暗号化のタイプは、Amazon Athena 詳細ソースプロパティにある［**暗号化タイプ**］フィールドで選択します。

サーバーサイド暗号化用に AWS Key Management Service によって生成された顧客マスタキー ID を使用します。

次のタイプの暗号化を設定できます。

なし

データは暗号化されません。

SSE-S3

［**SSE-S3**］暗号化タイプを選択した場合、Amazon Athena はサーバーサイド暗号化用に Amazon S3 で管理されているキーを使用して、ファイルを暗号化します。

SSE-KMS

［**SSE-KMS**］暗号化タイプを選択した場合、Amazon Athena はサーバーサイド暗号化用に AWS KMS で管理されているキーまたは Amazon リソースネーム（ARN）を使用して、ファイルを暗号化します。

CSE-KMS

［**CSE-KMS**］暗号化タイプを選択した場合、Amazon Athena はクライアントサイド暗号化用に AWS KMS で管理されているキーを使用して、ファイルを暗号化します。

第 4 章

Amazon Athena コネクタを使用したマッピングとマッピングタスク

マッピングを作成するには、データ統合の Mapping Designer を使用します。マッピングを作成するときは、オブジェクトを表すソースまたはターゲットを設定します。

詳細モードでは、Mapping Designer で、高度な機能を有効にするためのトランスフォーメーションと関数を含むようにマッピングキャンバスが更新されます。

マッピングの Amazon Athena ソース

マッピングでは、Amazon Athena ソースを表すようにソーストランスフォーメーションを設定できます。

以下の表に、ソーストランスフォーメーションで設定できる Amazon Athena ソースプロパティを示します。

プロパティ	説明
接続	ソース接続の名前。ソース接続を選択するか、**[新しいパラメータ]** をクリックしてソース接続にパラメータを定義します。
ソースタイプ	ソースオブジェクトのタイプ。 次のいずれかのソースオブジェクトタイプを選択します。 - 単一オブジェクト。Amazon Athena オブジェクトを 1 つのみ指定する場合に選択します。 - パラメータ。パラメータ名を指定する場合に選択します。
オブジェクト	ソースオブジェクトの名前。 単一のソースオブジェクトを選択します。

注: Binary データ型を使用しているテーブルのカラムをプレビューした場合、カラムには空白の値が表示されます。

以下の表に、ソーストランスフォーメーションで設定できるクエリオプションを示します。

プロパティ	説明
Filter	読み取り操作で値をフィルタ処理します。［**設定**］をクリックして、条件を追加してレコードをフィルタ処理し、Secure Agent がソースから読み取る行数を縮小します。 指定できるフィルタ条件を次に示します。 - **パラメータを使用しません。**基本フィルタを使用して、オブジェクト、フィールド、演算子、および値を指定して特定のレコードを読み取ります。 - **すべてパラメータを使用します。**パラメータを使用してフィルタ条件を表現します。 - **詳細。**詳細フィルタを使用すると、複雑なフィルタ条件を定義できます。
ソート	レコードをソートするための条件。 以下のソート条件を指定できます。 - **パラメータを使用しません。**使用するフィールドとソートのタイプを選択します。 - **パラメータを使用します。**ソート条件を指定するには、パラメータを使用します。 - **ソート順序。**データを昇順と降順のどちらでソートするかを指定します。

注: Timestamp カラムに詳細フィルタを設定した場合、フィルタ条件では値を `TIMESTAMP` として指定する必要があります。以下に例を示します。

```
SELECT * FROM <dbname>.<tablename> where col_date < TIMESTAMP '2030-06-22 18:30:00.000';
```

以下の表に、ソーストランスフォーメーションで設定できる Amazon Athena の詳細ソースプロパティを示します。

プロパティ	説明
S3 ファイルに Athena クエリ結果を保存	Amazon S3 ファイルに Amazon Athena クエリ結果を保存するかどうかを指定します。Amazon S3 ファイルに Amazon Athena クエリ結果を保存する場合は、チェックボックスをオンにします。 Amazon Athena クエリ結果は CSV ファイル形式で保存されます。 デフォルトでは、［S3 **ファイルに** Athena **クエリ結果を保存**］のチェックボックスはオフになっています。
S3OutputLocation	Amazon Athena クエリの結果を保存する Amazon S3 ファイルの場所を指定します。 JDBC URL 接続プロパティの `S3OutputLocation` パラメータで Amazon S3 ファイルの場所を指定することもできます。 接続プロパティおよび詳細ソースプロパティで Amazon S3 の出力場所を指定した場合、Secure Agent では詳細ソースプロパティで指定した Amazon S3 の出力場所が使用されます。
取得サイズ	1 回の結果セットの読み取りで Amazon Athena から取得する行数を指定します。 デフォルトは 10000 です。
暗号化タイプ	Amazon S3 ステージングディレクトリのデータを暗号化します。 以下の暗号化タイプを選択できます。 - なし - SSE-S3 - SSE-KMS - CSE-KMS デフォルトは None です。

プロパティ	説明
スキーマ名	ソースオブジェクトのスキーマ名を上書きします。
ソーステーブル名	指定したテーブル名で、メタデータで使用されているテーブル名を上書きします。

Amazon Athena 詳細ソースプロパティでトレースレベルを設定すると、ログに含まれる詳細情報の量を指定できます。

次の表に、設定可能なトレースレベルを示します。

トレースレベル	説明
Terse	Secure Agent は、初期化情報、エラーメッセージ、および却下されたデータの通知をログに記録します。
ノーマル	Secure Agent は、初期化情報、ステータス情報、検出されたエラー、およびトランスフォーメーション行エラーが原因でスキップされた行をログに記録します。セッションの結果のまとめを行いますが、個別行のレベルでのまとめは行いません。
Verbose Initialization	ノーマルトレースに加えて、Secure Agent は、初期化の詳細、インデックスおよび使用されたデータファイルの名前、および詳細なトランスフォーメーション統計をログに記録します。
Verbose Data	Secure Agent は、verbose 初期化トレースに加えて、マッピングに渡された各行をログに記録します。また、Secure Agent は、カラムの精度に合わせて文字列データを切り詰めた場所を示し、詳細なトランスフォーメーション統計を記録します。 トレースレベルを Verbose Data に設定すると、Secure Agent がトランスフォーメーションを処理する際に、ブロックされた状態の行の行データがすべて書き込まれます。

マッピングタスクでの Amazon Athena ソース

テンプレートベースのマッピングタスクで Amazon Athena ソース接続を使用する場合は、**[ソース]** ページで詳細プロパティを設定します。

関連するマッピングで接続またはソースオブジェクトのパラメータを定義した場合、マッピングタスクウィザードに **[ソース]** ページが表示されます。

マッピングに設定したマッピングタスクの **[トレースレベル]** 以外のすべての詳細ソースプロパティを設定できます。詳細については、「マッピングの Amazon Athena ソース」 (ページ 14)を参照してください。

注: マッピングにおいてソースオブジェクトの特定のソース接続とパラメータを使用している場合、マッピングおよびマッピングタスクでこれらの詳細プロパティを指定できます。この場合、マッピングのプロパティはマッピングタスクのプロパティで上書きされます。

第 5 章

データ型リファレンス

この章では、以下の項目について説明します。

- データ型リファレンスの概要, 17 ページ
- Amazon Athena とトランスフォーメーションのデータ型, 17 ページ

データ型リファレンスの概要

データ統合では、Amazon Athena によるマッピングおよびマッピングタスクで次のデータ型を使用します。

Amazon Athena **のネイティブデータ型**

Amazon Athena のデータ型は、フィールドのメタデータを編集した場合に、ソースおよびターゲットトランスフォーメーションの［**フィールド**］タブに表示されます。

トランスフォーメーションデータ型

トランスフォーメーションで表示されるデータ型のセットです。ANSI SQL-92 汎用データ型に基づく内部データ型で、プラットフォーム間でデータを移動するとき Secure Agent によって使用されます。トランスフォーメーションデータ型は、マッピング内のすべてのトランスフォーメーションに表示されます。

データ統合は、ソースデータを読み取るときに、ネイティブデータ型を対応するトランスフォーメーションデータ型に変換してから、データのトランスフォームを実行します。データ統合は、ターゲットに書き込むときに、トランスフォーメーションデータ型を対応するネイティブデータ型に変換します。

Amazon Athena とトランスフォーメーションのデータ型

以下の表は、データ統合でサポートされる Amazon Athena のネイティブデータ型と、対応するトランスフォーメーションデータ型を示しています。

Amazon Athena **のデータ型**	**トランスフォーメーションデータ型**	**説明**
Bigint	Bigint	符号付き 8 バイト整数
Binary	Binary	1〜104,857,600 バイト

Amazon Athena のデータ型	トランスフォーメーションデータ型	説明
Boolean	Integer	論理ブール型（true/false）
Char	String	固定長文字列
Date	Date/Time	カレンダーの日付（年、月、日）
Decimal	Decimal	選択精度の正確な数値
Double	Double	精度 15
Float	Double	精度 15
Int	Integer	符号付き 4 バイト整数
Smallint	Integer	符号付き 2 バイト整数
String	String	-1〜104,857,600 文字
タイムスタンプ	Date/Time	日時（タイムゾーンなし）
Tinyint	Integer	符号付き 1 バイト整数
Varchar	String	ユーザー定義で制限される可変長文字列

注: バイナリデータ型は、Parquet ファイルでのみ使用できます。

索引

A

Amazon Athena
　接続プロパティ 10
Amazon Athena コネクタ
　概要 6
Amazon Athena ソース
　マッピング 14

C

Cloud Application Integration コミュニティ
　URL 4
Cloud 開発者コミュニティ
　URL 4

I

Informatica Intelligent Cloud Services
　Web サイト 4
Informatica グローバルカスタマサポート
　連絡先情報 5

W

Web サイト 4

あ

アップグレード通知 5

し

システムステータス 5

す

ステータス
　Informatica Intelligent Cloud Services 5

て

データ型リファレンス
　概要 17

め

メンテナンスの停止 5